

C028 枕状溶岩(焼津市野秋)(静岡県GEO
DATA(25)特集：地学散歩(104))

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡県地学会 公開日: 2023-01-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 楠, 賢司, 三須, 寛希, 牛島, 咲季 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00029288

C028 枕状溶岩（焼津市野秋）



国道150号線から「花沢の里」（重要伝統的建造物群保存地区）へ行く途中に円筒形の枕が沢山積み重なったような枕状溶岩露頭（高さ約10m、幅約10m）を観察できる。枕状溶岩は海底に噴出した玄武岩質溶岩が海水によって急冷されたときに形成されることが多い。ここで認められる枕状溶岩は、竜爪層群（前期中新世後期～中期中新世初期）に属する。一般的に、枕状の中心部には、急冷の際に生成される放射状の割れ目が入る。しかし、この露頭は近くで観察ができないため、肉眼ではその有無を確認することはできない。

「花沢の里」の集落を数十m入ったところにも



国土地理院 地理院地図（電子国土Web）

も枕状溶岩の露頭を観察できる地点がある。そこに設置されている説明板には「山肌の大きな岩はオシャモツァンとよばれています。歯痛や子どもの病気にご利益があるといわれ、花沢の人びとが信仰してきました」と記してある。枕状溶岩は枕に見えるが、確かに歯にも似ているので、このような伝承があるのは納得できる。本露頭付近には駐車場（無料）が沢山あるのでマイカー利用による観察が可能である。

（楠 賢司・三須寛希・牛島咲季）